

野村3.5倍ブル・ベア2 (マネー ポートフォリオ2)

運用報告書(全体版)

第1期(決算日2017年2月9日)

作成対象期間(2016年2月19日～2017年2月9日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
なお、当ファンドは、運用開始以来永らくご愛顧いただきましたが、2018年2月9日に信託期間満了となります。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/債券
信託期間	2016年2月19日から2018年2月9日までです。
運用方針	円建ての公社債等を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として安定運用を行います。
主な投資対象	円建ての公社債等を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資は転換社債の転換等に限り、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 外貨建て資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として利子・配当等収益等を中心に基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配 み 金					
(設定日) 2016年2月19日	円 10,000		円 —		% —		% —	百万円 1
1期(2017年2月9日)	9,995		0		△0.1		—	1,743

*債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

*当ファンドは一時的に待機資金をプールしておくことを目的としたファンドであり、該当するベンチマーク等はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

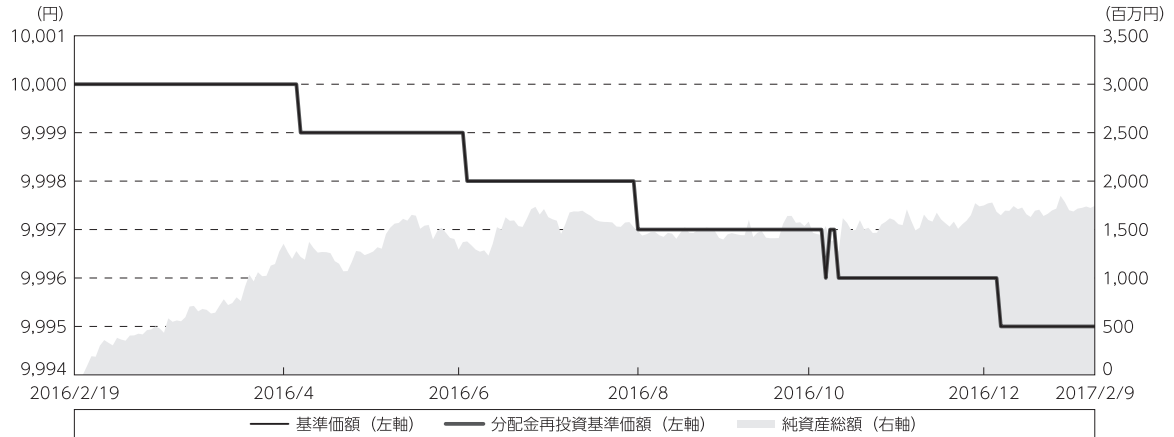
年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率
		騰 落	率				
(設定日) 2016年2月19日	円 10,000		% —		% —		% —
2月末	10,000		0.0		—		—
3月末	10,000		0.0		—		—
4月末	10,000		0.0		—		—
5月末	9,999		△0.0		—		—
6月末	9,999		△0.0		—		—
7月末	9,998		△0.0		—		—
8月末	9,997		△0.0		—		—
9月末	9,997		△0.0		—		—
10月末	9,997		△0.0		—		—
11月末	9,996		△0.0		—		—
12月末	9,996		△0.0		—		—
2017年1月末	9,995		△0.1		—		—
(期 末) 2017年2月9日	9,995		△0.1		—		—

*騰落率は設定日比です。

*債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



設定日：10,000円

期 末：9,995円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 0.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、設定時10,000円から期末9,995円に5円の値下がりとなりました。

○投資環境

2016年1月の日本銀行の金融政策決定会合において、2月16日からの「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入が決定されたことにより金利低下圧力がかかり、金利は低位に推移しました。

日本銀行は9月の金融政策決定会合において、量的・質的金融緩和の総括的な検証を行ない、物価2%目標の早期達成に向けて新たに「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定しました。その後、長期金利では上昇も見られましたが、国内短期金利は低水準での推移が継続しました。

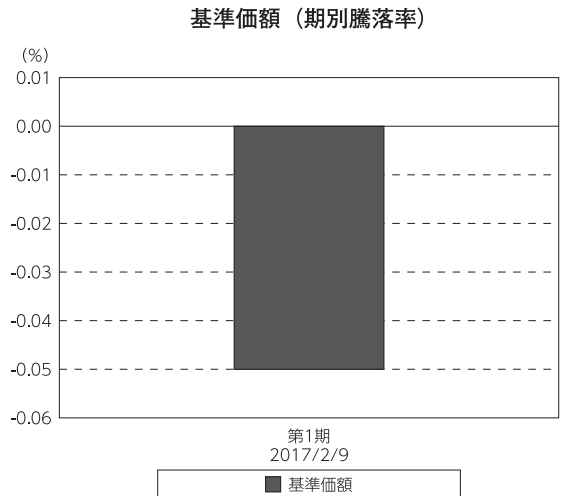
○当ファンドのポートフォリオ

資金増減（追加・解約）に応じて、短期の公社債やコール・ローンなど、短期金融商品（債券現先を含む）で運用し安定収益の確保に努めました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは一時的に待機資金をプールしておくことを目的としたファンドであり、該当するベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

◎分配金

経費控除後の配当等収益や基準価額水準を勘案し、今期の収益分配は見送らせていただきました。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第1期
	2016年2月19日～ 2017年2月9日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	0

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

◎今後の運用方針

今後も、資金増減（追加・解約）に応じて、短期の公社債やコール・ローンなど、短期金融商品（債券現先を含む）に投資し、安定した収益の確保を目的として運用を行なってまいります。今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※マイナス利回りの資産への投資等を通じてファンド全体の損益がマイナスとなった場合は、ファンドの基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

○1万口当たりの費用明細

(2016年2月19日～2017年2月9日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 0	% 0.001	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(0)	(0.001)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販 売 会 社)	(0)	(0.001)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受 託 会 社)	(0)	(0.000)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) そ の 他 費 用	0	0.000	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	0	0.001	
期中の平均基準価額は、9,997円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 * 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 * 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2016年2月19日～2017年2月9日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2016年2月19日～2017年2月9日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
		百万円	%		百万円	%
預金	百万円 14,991	百万円 14,991	100.0	百万円 14,991	百万円 14,991	100.0

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村信託銀行です。

○自社による当ファンドの設定、解約状況

(2016年2月19日～2017年2月9日)

設定時残高 (元 本)	当期設定 元 本	当期解約 元 本	期末残高 (元 本)	取引の理由
百万円 1	百万円 -	百万円 -	百万円 1	当初設定時における取得

○組入資産の明細

(2017年2月9日現在)

2017年2月9日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2017年2月9日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 1,780,875	% 100.0
投資信託財産総額	1,780,875	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年2月9日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,780,875,573
コール・ローン等	1,780,875,573
(B) 負債	37,441,889
未払解約金	37,431,275
未払信託報酬	8,826
未払利息	1,762
その他未払費用	26
(C) 純資産総額(A-B)	1,743,433,684
元本	1,744,300,000
次期繰越損益金	△ 866,316
(D) 受益権総口数	1,744,300,000口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,995円

(注) 期首元本額は1,000,000円、期中追加設定元本額は20,267,920,000円、期中一部解約元本額は18,524,620,000円、1口当たり純資産額は0.9995円です。

○損益の状況 (2016年2月19日～2017年2月9日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 77,865
受取利息	2
支払利息	△ 77,867
(B) 有価証券売買損益	26,902
売買益	△178,334
売買損	205,236
(C) 信託報酬等	△ 16,090
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 67,053
(E) 追加信託差損益金	△799,263
(配当等相当額)	(△738,260)
(売買損益相当額)	(△ 61,003)
(F) 計(D+E)	△866,316
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△866,316
追加信託差損益金	△799,263
(配当等相当額)	(△738,260)
(売買損益相当額)	(△ 61,003)
分配準備積立金	10,812
繰越損益金	△ 77,865

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2016年2月19日～2017年2月9日)は以下の通りです。

項 目	当 期
	2016年2月19日～ 2017年2月9日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	10,812円
c. 信託約款に定める収益調整金	0円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	0円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	10,812円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	0.06円
g. 分配金	0円
h. 分配金(1万口当たり)	0円

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	0円
------------------	----

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合

分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合

分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金 (特別分配金) となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合

分配金は全額元本払戻金 (特別分配金) となります。

○お知らせ

該当事項はございません。